



RITSUKO KUNII's
Ride & Essay
「やっぱり」
アタシはバイクが好き!
-Vol.6-

小江戸の街並みに弾けたイタリア娘

オートバイの旅人、クニイリツコによる、ツーリング・エッセイ。子どもを預けているディタイムが、私の自由な時間。9時-5時で行けるツーリングスポットを求めて、今回も走る!

文/国井律子 写真/安井宏克

川越の饅頭が美味しいワケ

東京から近くて情緒があつて、お腹が満足するツーリング先……。あつて、川越です！ 時間のない旅人の強い味方、埼玉県は川越へ、梅雨前の平日ひとっ走りしてきました。川越は、江戸時代には観音・譜代の川越藩の城下町として栄えた。そのため城跡、神社、寺院、旧跡、歴史的建造物など街のあちこちに保存されており、「小江戸」とも呼ばれている。テレビにもよく紹介されるので、知っているヒトも多いのでは。かく言う私も最初の川越来訪は、朝の情報番組に感化されて訪れたクチ。女性レポーターが小江戸のレトロな街並みをそぞろ歩き、土産物屋で和柄があしらわれた小物を手に取ったり、うなぎを頬張っていたりしていた。川越の周りに流れる川では、昔はたくさん天然うなぎが獲れたそう。海のない埼玉。庶民にとって手軽に食べられるタンパク源は河岸で捕れるコイ、ドジョウ、うなぎなどの川魚。その名残でいまでもこのあたりにうなぎ店が多いと、女性レポーターがホクホクの饅重をつつきながら説明していた。

うなぎにロックオン!

何を隠そう私はうなぎが大好きなのだ。さつぱり次の週末、「ロケハン」という名目で息子を実母に預かってもらい、「いつもありがとうございませう……」、夫とそれぞれのオートバ

イに誇り、目指すは小江戸!

初めての川越は想像していた以上に古い街並みが残っていた。メインストリートである蔵造りの通り、県道39号線は片側1車線ずつで交通量がけっこうある。秋晴れの土曜だからか観光客の多さにもびっくり。他人が写らない写真など撮れやしなくて、途中から聞き直った。わいわい賑わう雰囲気も楽しそうじゃないか。夢中でシャッターを押している隣で、夫はクールな表情。あ、そうか、このヒト金沢出身……。見慣れているんだ、古風な景色……。 (笑)。それはそうと、「近い」というのが川越を気に入った最大のポイント。関越道を使えば世田谷のわが家から1時間ちょっとだ。

川越、また行きたいねえと夫と言い合っていたところに先日のGW、金沢で暮らすお義母さんが遊びに来た。東京で何をしたいか彼女にたずねたところ「川越!」と、即答。ランチは前回と同じうなぎ屋でいただき、前はやらなかった神社巡りなどもちらっと。こうやって旅は、回数を重ねるごとに深まっていく。しかも同行するメンバーによって、同じ場所でも違う風景に映るからおもしろい。お義母さんは正月ぶりに再会した息子と手を繋ぎ、楽しそうに歩いていた。金沢で暮らす彼女に、小江戸はどう映っただろう。で、それから1ヵ月も経たない梅雨入り前の平日。イタリア語で「どう猛な」という意味のブルターレと一緒に訪れた今回3回目の川越だっ



RITSUKO KUNII

旅人エッセイスタ、雑誌、テレビ、ラジオなどで幅広く活躍。近年はオートバイ、自転車、サーフィンなどの乗りもの全般。愛車は99年型のヤマハビッドソン・スポーツスター1200。愛の母、フライトジャケット¥39,000、ストリッチフィットパンツ¥17,000、ブーツ¥40,000、グローブ¥9,800/すべて税別 (クニニ ☎03-5537-8567)、サンダラスUNSU



焼魚のシラスウナギの不漁で値が高騰したり、お墨の墨を倒けたら焼小ナギに目を見張った。それでも月1〜2回必ずうなぎを食べてきた。その焼魚屋長に驚かれたが、みなさんはどう?

「絶対このオートバイに乗る！」
そうと決まれば足つきの悪さなんかどうでもいいのだ。ウエッジソール風の少し厚底なブーツを履けばイケる？ グラツと来ててもこの軽さならこらえられる？ あれこれシミュレーションをし、さらには、免許が先か車体が先か……、そりゃ車体でしょ！ そう、女性には衝動的な生き物でもある(笑)。実際私も23歳のときスポーツスターに一目惚れし、大型免許を取るより先にハーレー屋

エンジンを切ったブルターレを押して、川越のランドマーク的存在、「時の鐘」に向かっていると、「へえ、ぜんぶ電子制御なんだ！」と、通りすがりのおじさん。彼はブルターレに魅了された様子で、「へえ」とか「ほお」とか「たいしたものだ」とかつぶやき、しばらく私の後ろをくっついて歩いてた。
ブルターレ、見た目のインパクトも相当だが、跨った瞬間の「足、着かないかも！」という焦りもハンパなかった(笑)。お尻をずらしてなんとかギリギリ片足は地面をかすめ、胸をなで下ろす。で、走り出してふたたび驚く。なんてスムーズなのだ！ きちっと止まる、スッと曲がる、運動性の高さはたまたまこい。
ギアチェンジの際、クラッチを切る必要のないクイックシフターのオートバイに乗るのは今回が初めてだ。いまだときのスポーツバイクが増えてきた装備らしいけど、もともとはコンマ一秒を争うレースのテクノロジー。クラッチを握るアクセルを

戻すギアチェンジするクラッチを離すアクセルを開けるという通常の作業が、クイックシフターにかかればアクセルを開けたままシフトアップ。以上！ 頭で考えようと緊張してはいるが、習うより慣れろ。身体はすぐクイックシフターに馴染み、川越に着くまでいろいろ試した。ギアチェンジの際アクセルを戻さず、ひねりっぱなしにした方がスムーズ、とか。細かい時もおもしろそう！ 喉むほどに味わいが出るスルメじやないけど、ブルターレにどんとん興味が湧いた。お尻がカチツとはまる乗りやすいポジション。何しろ車重が軽く、乾燥重量では170kgを切る。私の愛車は99年式のハーレーダビッドソンのスポーツスター。タンクを小さくしたりFRP素材のパーツを付け替えたり軽量化を試みたが、それでもブルターレより50kg以上重い。最近ブルターレ乗りの女性ライダーが増えているという話もなんだかうなずけて、そうそう女性ってイメージから入る生き物。



左/うなぎの焼き方の違いに加え、西と東ではさばき方が異なる。右/多い江戸は「切敷」を連想させるので背開き。商人文化の関西は腹を割って出す」ということで腹開き……など諸説あるよう。エスカーターに立つ位置やマツカマツドか!? たった500kmしか離れていないのにここまで違うのはなぜ。右/今回お邪魔したのは天保3年から185年も続くいのち。

「キミのバイク、いまごろ太平洋、渡ってるよー」
教官に茶化されたつつ教習所に通った日々も懐かしい思い出だ。そして現在もそのスポーツスターには乗っている。

関東風か、関西風か
初めて川越を訪れたとき、その店にはインターネットで調べてたどりに着いた。グルメ系の投稿サイトで一番評価が高かったのだ。そう考えるとインターネット、お店にとってありがたくも悔い存在だろうか。
混むだろうと、ランチタイムのピークが過ぎたころを狙って店に着いたのが14時ごろ。それでも私の前には2組。後にも喪服を着た集団が入店してきた。
うなぎという点、関西風は焼きの技術でうなぎを柔らかくしている。表面こんがり、なかはジュシーな「パリふわ」。関東は蒸すことで皮さえも箸でスッと切れ、舌の上でとろける「トロふわ」の仕上げ。どっちが美味しいか。これはつまり好み問題。私は両方好きだけど、慣れ親しんでいるのは東のトロふわ。ただし蒸しの工程も加わる関東風は出てくるのがとにかく遅い。その欠点を私拭するため、うちの近所のうなぎ店では予約制。店に着いたころちょうどアツアツの燗重が出てくる。待つのがきらいなせつちか女にはうれしいうなぎステムだ。

で、川越のうなぎ屋。この店は県外からもひっきりなしに客が訪れる人気店。だいたいメドを付け、あらかじめうなぎを蒸しているのか？ やって来た客には焼き上がったハシから提供しているのか？ とにかく出てくるのが遅い。時間のない旅人にとってありがたい。

ところどころでうなぎ、私が一番気に入っているポイントには白米に染み込んだ甘いタレも……。なんてことを今回、しみじみ思った。酒、醤油、砂糖の黄金比が醸し出すソレに、焼いたうなぎをドボンと漬ける。継ぎ足し継ぎ足し、複雑な旨味が絡み合い、うなぎの脂も溶け出して、だから「忙しい店ほど旨い」なんて言われているのか。それと、燗ダレのポテンシャルの高さは、もしかしていろんな食材に使えるかも。案外バケットとか意外な食材と合うかも？
アレコレ想像しつつペロリと平らげた。恐ろしいことに気づく。Yカメラマン、本誌編集長、男性と同量、同カロリーの私の胃袋に……。でも食べちゃったモノはしかたない。明日からダイエットがんばります！ もちろん摂取した熱量をカットする大人のカロリットで燃やしてほしいけど……。



川越でうなぎの次に定番の湯かへい抹茶ソフトをべろり。明日からダイエットがんばります！ もちろん摂取した熱量をカットする大人のカロリットで燃やしてほしいけど……。



新緑の荒川土手にひとときの見える、真っ赤なトラスフレーム。こうやって見てみるとやはり重心は高い。でもその分、操縦性や運動性は抜群で、キビキビ気持ちよく初夏の風を切り裂いた。

た。小江戸、緑あるなあ(笑)。
惚れたら乗りたい！ オンナ心
初めてブルターレ800を見たとき、赤銅色の3本出しマフラーにゾクゾクした。三角形が組み合わさったような真っ赤なトラスフレームがイタリア車らしい。楕円形のヘッドライト。盛り上がった流線型のタンク。明らかにほかと一線を画した存在感、インパクト、デザイン性。親利なナイフでスパッと切り落としたような短いリアシートと、リアタイヤの隙間は大きく開き、そこから小江戸の景色がよく見えた。
そんな3回目の川越来訪は金曜だった。平日なのにこの日もまた活気に満ちていた。レンタル浴衣を着た若い女子グループやカップルや外国人が楽しそうに闊歩している。
浴衣の花がそこそこで咲くメインストリートは、相変わらずお祭りみたいに賑やかだった。ハイブリッドカーが行き交う古い街並みで、派手でスタイリッシュなブルターレは、



土手の上から富士山がうっすら見えて、「こんな場所でこんな景観は、そして本道にたどり着いてきたことが、たまたま本道にたどり着いた。たまたま本道にたどり着いた。たまたま本道にたどり着いた。」

浴衣の花がそこそこで咲くメインストリートは相変わらずお祭りみたいに賑やかだった。

まあなんと目立つこと。当然、たくさんの人に話しかけられる。ありがちな「何ccなの？」から始まり、ブルターレに跨る私に向かってシヤッターを切るYカメラマンの横では、何人もの外国人観光客が立派な一眼レフを構えていた。オートバイを撮っているの？ それとも私(笑)!!



左/排気管が独特な3-ロップ。近年「ユーロ4」という整合性を図った新基準ができた。つまり欧州仕様もそのまま日本でも売れて、象徴的な3本出しマフラー万歳！ 「国内仕様」とか「足輸入仕様」とかいう単語は今後なくなる？ 右/スポーツ、ノーマル、レインという3種類のマッピングが選べる。得した気分になる買主性は、私だけじゃないはず(笑)。